

受身の表現について

今回の号では読者の方からの質問にお答えして、スペイン語の受動態についてもう少し考えてみましょう。Acueducto第3号では、Se me rompió el plato (お皿が割れちゃった) という表現を取り上げましたが、もう少し詳しく説明しましょう。

まず、いわゆる「受身」とか「受動態」とは何でしょうか。「voz pasiva」の訳語なのですが、難しい理論はさておき、実例から見ていきましょう。例えば、

El autor escribió esta novela.

その作家は、この小説を書いた。

「作家」が《行為者》で、「小説」が書かれた《対象》です。それぞれ、《主語》と《目的語》になります。この《目的語》を主語として立て、動詞を《ser + 過去分詞》にすると受動態ができます。《行為者》を表したいときは、《por ~》を付けます。

Esta novela fue escrita por el autor.

この小説はその作家によって書かれた。

さてご存知の通り、スペイン語にはもう1つの有力な受動態の形式があります。いわゆる《se受身》です。

Se exponen muchos libros en la Feria Internacional.

国際見本市ではたくさんの本が展示されている。

主語は、「muchos libros」で、「本が自分自身を展示する」→「本が展示される」という意味になります。

それぞれの受身形には使用上の制限があります。まず、《se受身》は3人称(単・複)でしか使えず、さらに物に限られます。なぜなら、主語が《私》や《君》だったり、または3人称でも《人》だったら、別の再帰用法になってしまうからです。

Su política se criticó duramente.

彼の政策は厳しく批判された。

El alcalde se criticó (a sí mismo) duramente.

市長は自分を厳しく批判した。

つまり、主語が人だと《自分自身を》を表す本来の再帰になってしまうので、受身の用法ではなくなってしまうからです。それに対して、《ser + 過去分詞》の受身では、主語が物であっても人であっても構いません。

さて、学習者としてはこれら2つの形式はどう違うのか、どう使い分けたらよいか疑問に思えますよね。いろいろな説明が付けられますが、今日は以下のように「能動態」、「受動態」と別に第3の「中動態」を認める立場から説明してみましょう。中動態(voz media)とは、大雑把に言えば、「能動態」と「受動態」の中間ということです。例を挙げます。

①能動態: **Yo rompí el plato.** 私はお皿を割った。

②受動態: **El plato fue roto por mí.**

お皿は私によって割られた。

③中動態: **Se (me) rompió el plato.** お皿が割れた。

まず、①は、《主語+動詞+目的語》という構造です。これを②の受動態にすると、元の目的語を主語に、動詞を《ser + 過去分詞》に(つまり、**fue roto**)、最後に元の主語(=行為者)を《por ~》で表します。

次に、もう一つの受身《se受身》の《se + 3人称》という形式を使って③を作ってみましょう。

「お皿は自分自身を割った」→「お皿は割れた」となります。この形式では通常、《por ~》(=行為者)を付けません。逆に言うと、誰がお皿を割ったのか、わからないとか、関心がない時にこの形式を使うと言ってもよいでしょう。

日本語訳に注意してみてください。①は「割る」(他動詞)、②は「割られる」(受身)、③は「割れる」(自動詞)となっています。②「割られる」は、「割る」+「られる」の受身なので、「誰かによって割られた」こととなります。一方、「割れる」は自発、つまり「誰によって」が感じられず、「自ら割れた」という感じがします。そしてこの「自発」の概念に近いのが「中動態」なのです。

さらに、③の文には「me」(私に)という間接目的語が入っています。これで、「お皿が私に対して割れてしまった」、つまり「私」が被害者という感じが出ます。いわゆる「迷惑の受身」です。本当は、「私」の不注意で割ったはずなのですが、言い方としては「私」は被害者となります。

最後に、《se受身》の例文をいくつか挙げておきましょう。どれも《誰が》という行為者にはあまり関心がない表現ですね。

Se alquilan habitaciones para estudiantes.

学生に部屋貸します。

Desde mi casa se ve bien el monte Fuji.

私の家から富士山がよく見える。

Se oye un ruido extraño por la noche.

夜、変な音が聞こえる。

それでは今回はこれくらいで。¡Hasta la vista!

仲井邦佳



仲井 邦佳

なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。

京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。

著書に『コミュニケーションのためのスペイン語』(共著、第三書房)、

『中級スペイン語—文法と演習—』(共著、同学社)などがある。